

宍道湖刺網漁業実態調査

(宍道湖・中海水産振興事業)

藤川裕司

1. 研究目的

宍道湖における刺網許可数は630を数え、重要な漁業種と考えられるが、その漁獲統計は不明である。これは、宍道湖漁協では漁獲物を漁協を通じて販売する仕組みが確立しておらず、各経営体が個々に業者へ出荷するためである。

そこで刺網漁獲実態を把握するため、平成12年度より毎年標本船野帳調査および出漁日数に関するアンケート調査を継続実施しており、今年度は以下の知見を得たので報告する。

③使用した漁具の長さと言った日数

平成 年 月 日

_____ 刺網(長さ m、 晩)

_____ 刺網(長さ m、 晩)

①漁業種類 (○をする)

わかさぎ刺網 しらうお刺網 すずき・このしろ刺網
ぼら刺網 こい・ふな刺網 雑魚刺網

②漁獲物の種類、量及び価格 (銘柄があれば銘柄別に記入する)

魚 種	漁獲量 (k g)	価 格 (合 計)

スズキ延縄 (釣針の数 ケ)

④操業位置 (地図に印を付ける)



図1 標本船野帳

(平成15年12月以降の様式)

2. 研究方法

刺網許可保有630経営体より抽出した31経営体へ図1に示した標本船野帳を配布し、操業網種、漁獲量、漁獲金額等の記帳を依頼した。これら31経営体の刺網種別許可数を表1に示した。平成17年4月に図2に示したアンケートを、刺網操業許可保有630経営体のうち標本船野帳記入31経営体と休業者17経営体を除く582経営体へ送付し、平成16年4月～17年3月の月別出漁日数の記入を依頼した。

宍道湖における刺網総漁獲量は、アンケート回収経営体による月別操業日数と標本船野帳記入31経営体による操業日数の比を、標本船野帳記入31経営体の漁獲量に乗じて推定した。

表1 宍道湖漁協刺網野帳記入31経営体の網種別許可数

ワカサギ 刺網	シラウオ 刺網	スズキ・コノシロ 刺網	ボラ 刺網	コイ・フナ 刺網	雑魚 刺網
26	28	24	0	25	13

下記の各刺網について、あなたが出漁された日数について、おおよそで結構
ですので、御記入下さい。

- ・出漁日数0の場合は何も記入しないで下さい。
- ・すべての刺網について全く出漁されなかった場合も、この用紙は返送して下さい。

	わかさぎ 刺網	しらうお 刺網	すずき このしろ 刺網	ぼら 刺網	こい ふな 刺網	雑魚 刺網
平成16年4月						
5月						
6月						
7月						
8月						
9月						
10月						
11月						
12月						
平成17年1月						
2月						
3月						

(住所)

(氏名)

図2 アンケートの様式

3. 研究結果と考察

標本船野帳記入31経営体による、平成16年4月から17年3月の刺網月別出漁日数を表2に示した。また、その魚種別漁獲量を表3に示した。

アンケートが回収された経営体のうち実際に刺網に着業した経営体を表4に示した。アンケートを送付した582経営体のうち、実際に回収されたのは289経営体であった。この289経営体のうち、実際に刺網に着業したのは127経営体であった(表4)。アンケートが回収された289経営体の平成16年4月から17年3月の月別出漁日数を表5に示した。出漁日数はシラウオ刺網がもっとも多く、次いでコイ、フナ刺網、ワカサギ刺網、スズキ・コノシロ刺網の順であった。

表2 宍道湖漁協標本船野帳記入31経営体による平成16年4月から17年3月の刺網月別出漁日数

	ワカサギ刺網	シラウオ刺網	スズキ・コノシロ刺網	コイ・フナ刺網	雑魚刺網
平成16年4月	7	159	11	1	0
5月	9	15	8	0	0
6月	0	0	6	0	0
7月	0	0	3	0	0
8月	0	0	0	0	0
9月	0	0	2	0	0
10月	0	0	16	11	0
11月	19	0	31	47	6
12月	87	97	8	83	6
平成17年1月	41	262	0	28	0
2月	8	260	0	25	0
3月	0	285	0	7	0
計	171	1,078	85	202	12

表3 宍道湖漁協標本船野帳記入31経営体による平成16年4月から17年3月の刺網月別漁獲量

	ワカサギ刺網		スズキ・コノシロ刺網		コイ・フナ刺網		雑魚刺網
	ワカサギ	シラウオ	スズキ*	コノシロ	コイ	フナ	マハゼ
平成16年4月	13	2,163	107	0	6	9	0
5月	23	79	125	0	0	0	0
6月	0	0	61	0	0	0	0
7月	0	0	30	0	0	0	0
8月	0	0	0	0	0	0	0
9月	0	0	23	0	0	0	0
10月	0	0	477	0	5	152	0
11月	28	0	728	0	7	1,074	89
12月	216	1,075	64	0	59	1,458	41
平成17年1月	79	4,761	0	0	17	804	0
2月	5	4,999	0	0	27	336	0
3月	0	5,605	0	0	0	131	0
計	363	18,682	1,614	0	120	3,963	131

* 中ハン、セイゴ含む

表4 平成16年4月から17年3月におけるアンケートが回収された経営体のうちで実際に刺網に着業した経営体

		松江	宍道	斐川	平田	玉湯	出雲	鹿島	不明	合計
回収数		91	32	65	65	17	5	0	14	289
着 業 者 数	ワカサギ刺網	14	8	16	15	1	0	0	1	55
	シラウオ刺網	25	9	11	10	4	0	0	3	62
	スズキ・コノシロ刺網	15	1	5	6	1	0	0	0	28
	ボラ刺網	1	0	1	1	0	0	0	0	3
	コイ・フナ刺網	31	9	22	26	2	1	0	4	95
	雑魚刺網	5	0	0	0	1	0	0	0	6
	いずれかの刺網 に着業した経営 体	42	15	26	31	5	1	0	7	127

表5 宍道湖漁協アンケート回収289経営体の平成16年4月から17年3月の刺網月別出漁日数

	ワカサギ刺網	シラウオ刺網	スズキ・コノシロ刺網	ボラ刺網	コイ・フナ刺網	雑魚刺網
平成16年4月	0	203	28	1	28	0
5月	0	54	44	0	9	0
6月	0	0	35	0	4	0
7月	0	0	20	0	3	0
8月	0	0	33	0	0	0
9月	0	0	34	1	4	0
10月	9	6	60	0	51	1
11月	34	20	27	3	162	8
12月	132	156	5	8	403	15
平成17年1月	132	324	0	11	308	1
2月	66	346	0	3	267	0
3月	12	365	0	1	178	0
計	385	1,474	286	28	1,417	25

表6 宍道湖漁協アンケート回収289経営体の平成16年4月から17年3月の刺網月別推定漁獲量

	(kg)						
	ワカサギ刺網	シラウオ刺網	スズキ・コノシロ刺網		コイ・フナ刺網		雑魚刺網
	ワカサギ	シラウオ	スズキ	コノシロ	コイ	フナ	マハゼ
平成16年4月	0	2,762	272	0	168	238	0
5月	0	0	686	0	0	0	0
6月	0	0	356	0	0	0	0
7月	0	0	197	0	0	0	0
8月	0	0	0	0	0	0	0
9月	0	0	391	0	0	0	0
10月	0	3	1,788	0	23	703	0
11月	50	10	634	0	22	3,702	119
12月	328.03	1,729	40	0	288	7,079	103
平成17年1月	253	5,888	0	0	185	8,839	0
2月	38	6,652	0	0	283	3,591	0
3月	6	7,179	0	0	0	3,339	0
計	674	24,222	4,365	0	969	27,490	222

*ワカサギの3月の1経営体1日当たり漁獲量を0.5kgとした。

*シラウオの10,11月の1経営体1日当たり漁獲量を0.5kgとした。

アンケート回収 289 経営体による出漁日数 (表 5) と野帳記入 31 経営体による出漁日数 (表 2) の比を、野帳記入 31 経営体による魚種別漁獲量 (表 3) に乗じて、アンケート回収 289 経営体による魚種別漁獲量を推定した (表 6)。コノシロは、聞き取りよりアンケート回収 289 経営体中でコノシロを漁獲している経営体はないと考えられたので 0 とした (表 6)。次いで、アンケート回収 289 経営体による魚種別推定漁獲量 (表 6) に野帳記入 31 経営体の魚種別漁獲量 (表 3) を加えた (表 7)。宍道湖における刺網魚種別漁獲量は、シラウオとフナが多かった (表 7)。フナは平成 13 年度は、107 トン漁獲されたが、平成 14 年度では 47 トンに減少し、その後平成 15 年度は 46 トンで、平成 16 年度はさらに減少し 31 トンであった。シラウオは、平成 14 年度は 19 トンであったが、平成 15 年度は 44 トンと豊漁となり、平成 16 年度も 43 トンと好調であった。

宍道湖定置網による平成 16 年 4 月から 17 年 3 月の魚種別漁獲量を表 8 に示した。刺網魚種別漁獲量 (表 7) と定置網魚種別漁獲量 (表 8) を比較したところ、定置網に比較して刺網がフナでは 9.9 倍、シラウオでは 2.8 倍漁獲していることが認められた。なお、アンケート未回収 293 経営体の漁獲量を考慮すると、この比はさらに大きくなると考えられる。平成 12~15 年度にも同様な現象が認められており、刺網は宍道湖において魚類資源を対象とする、最も重要な漁業種であることが再度確認された。

表7 アンケート回収289刺網経営体と野帳記帳31刺網経営体による平成16年4月から17年3月の刺網月別漁獲量 (kg)

	ワカサギ刺網		スズキ・コノシロ刺網		コイ・フナ刺網		
	ワカサギ	シラウオ	スズキ	コノシロ	コイ	フナ	マハゼ
平成16年4月	13	4,925	379	0	174	247	0
5月	23	79	811	0	0	0	0
6月	0	0	418	0	0	0	0
7月	0	0	226	0	0	0	0
8月	0	0	0	0	0	0	0
9月	0	0	414	0	0	0	0
10月	0	3	2,264	0	28	855	0
11月	77	10	1,362	0	29	4,775	208
12月	544	2,804	104	0	347	8,537	145
平成17年1月	331	10,648	0	0	202	9,642	0
2月	43	11,651	0	0	310	3,927	0
3月	6	12,784	0	0	0	3,470	0
計	1,037	42,904	5,979	0	1,089	31,453	353

表8 宍道湖 定置網による平成16年4月から17年3月の月別漁獲量 (kg)

	ワカサギ	シラウオ	スズキ	コイ	フナ	マハゼ
平成16年4月	-	-	-	-	-	-
5月	-	-	-	-	-	-
6月	-	-	-	-	-	-
7月	-	-	-	-	-	-
8月	-	-	-	-	-	-
9月	-	-	140	0	0	0
10月	9	-	2650	7	43	4
11月	28	334	4572	34	240	126
12月	34	1193	5143	16	655	1,062
平成17年1月	79	5302	872	10	932	441
2月	26	4023	5	0	573	53
3月	0	4267	287	49	744	0
計	176	15119	13669	116	3,187	1,686

アンケート回収 289 刺網経営体と野帳記入 31 刺網経営体および定置網による平成 16 年 4 月～17 年 3 月の魚種別推定漁獲量を表 9 示した。平成 16 年度は、漁獲量はシラウオが 58 トンともっとも多く、次いでフナの 35 トンであった。アンケート未回収 293 経営体の 1 経営体当たり出漁日数は、アンケート回収 289 経営体と同じであると仮定し、アンケート送付 582 刺網経営体と野帳記入 31 刺網経営体および定置網による平成 16 年 4 月～17 年 3 月の魚種別推定漁獲量を表 10 に示した。現実的には、1 経営体当たり出漁日数は、アンケート記入経営体よりアンケート未回収経営体の方が低い可能性が高いので、宍道湖におけるワカサギ、シラウオ、スズキ、コイ、フナの刺網と定置網による漁獲量は 115～173 トンの範囲内と推定される。

表9 アンケート回収289刺網経営体と野帳記帳31刺網経営体および定置網による平成16年4月～17年3月の魚種別推定漁獲量

魚種名	ワカサギ	シラウオ	スズキ	コイ	フナ	計
漁獲量 (kg)	1, 213	58, 023	19, 648	1, 205	34, 640	114, 729

表10 アンケート送付582刺網経営体と野帳記帳31刺網経営体および定置網による平成16年4月～17年3月の魚種別推定漁獲量

魚種名	ワカサギ	シラウオ	スズキ	コイ	フナ	計
漁獲量 (kg)	1, 897	82, 581	24, 073	2, 188	62, 510	173, 249

4. 研究成果

- 調査で得られた結果は、宍道湖・中海水産振興事業検討委員会、内水面調査研究協議会で報告した。